

滋賀の米や野菜の付加価値と収量を高め 肥料を軸に農業ソリューションを提供する。



<http://www.noya.co.jp/>

有限会社野矢商店

幕末から150余年の歴史を刻む 八日市の老舗肥料商

稲が元気に育ち、おいしいお米になるまでには、いくつもの栄養素が欠かせない。葉や茎を大きく育てるチッ素、花や実の生長を助けるリン酸、根の発育を促すカリウム、茎や葉を丈夫にするケイ酸など。

「これらの栄養素を補い、田んぼの地力を高める肥料は、黄金色の稲穂の海が広がるこの国の原風景を育んできた」。自負を込めて語るのは、元治元（1864）年の創業以来、八日市の地で150余年、肥料を商ってきた有限会社野矢商店の社長を兼ねる野矢善章会長だ。

「化学肥料以前の肥料といえば、にしんがす北海道から敦賀まで船で運ばれ、さらに馬車で滋賀へ持ち込まれた鯀粕にしんがすの集散

地が八日市だったことから、当家は肥料を商うようになった。戦後は滋賀の食糧増産を陰で支え、ライフスタイルの変化が米価の下落を招くようになってからは、よりおいしく、栄養に富んで安心・安全な付加価値の高いお米づくりのお手伝いをしてきた。

「商系卸商」として県内を代表 メーカーや小売店との絆も強い

現在の野矢商店の業態は肥料卸商。肥料、農薬、農業資材等を供給するメーカー群とエンドユーザーである農家の間に立ち、「滞りない商品流通」を舵取りする商社機能を担っている。年間8千トン以上の肥料を商い、販売エリアは滋賀県のほぼ全域だ。

ちなみに、肥料や農薬等の流通には長く「二元流通」の仕組みが定着している。農協・経済連・全農という農協組織

「商系の肥料メーカーや卸商、小売店など約1640の事業者が集まって一般社団法人全国肥料商連合会を構成。その滋賀県部長を務める当社は、滋賀において、商系を代表する卸商という立場を持つので、幅広い商系メーカーから仕入れられるし、約40軒ある県内の商系小売店の全てとお付き合いができています」。

野矢会長が話すように、長年の商いで築いてきた信用は大きく、大手商社系を含む10数社もの商系肥料メーカーと結んだ絆は強い。このため、県内各地の農家から求められるリクエストに応えられ、「かなりニッチな商品」でも提供できるという。

滋賀のニーズにフィットする PB商品もラインアップ

「だが、肥料メーカーは、全国で売れる標準的な商品をつくるわけだから、滋賀の土地に合った肥料が必ずしもそろってはいない」。そこで野矢商店では地元の風土に合ったPB（プライベートブランド）商品を10シリーズほど開発している。

ヒット商品は有機体チッ素を50%以上含む「グルメ倶楽部」シリーズ。同じくオーガニック志向の「わかば」シリーズで、「環境こだわり」農産物にぴったりだ。



地元の風土に合ったPB商品を開発

PB商品ではないが、肥料成分の小さな粒をイオウと生分解性のワックスでコーティングした「有機ツバメコート」も関心を集めている。樹脂で被膜した肥料が小さな殻となつて残り、環境に影響を与えかねない課題を解決する商品だ。作物の成長に合わせて中身が少しずつ溶け出し、無駄に流れ出す肥料を約3割少なくでき追肥の手間も省ける。また、投げ込むだけで稲を元気にできる錠剤状の肥料「ファイト・アップ」の普及にも注力する。こうした背景には就農者の高齢化があり、「省力化につながる肥料」への要望は年々高まるばかりだという。

「肥料の販売が私たちのゴールではなく、その土地に合った施肥を実行してもらい、成果を得ていただくまでをお手伝いしたい。そう望み、土と施肥に関する専門知識を身につけた施肥技術マイスター（全国肥料商連合会が認定）を私

を含む社員数人が取得。実地で施肥を指導しながら、生産者さんの声を聞き、それをメーカーへフィードバックすることで時代が求める肥料へつなげようと努めている。農業の繁栄が私たち肥料商の繁栄につながるのだから」と鈴木 崇朗専務。

農業を取り巻く環境変化は 肥料商には追い風になるだろう

施肥指導を通じて農家とふれあう中で、農産物の高付加価値化や食の安全などについて、肥料ができることはまだまだ多く残されていることを実感したという。いま、T P P（環太平洋連携協定）の大筋合意、国が打ち出す農政改革や農業の「成長産業」化など、農業を取り巻く環境が大きく変わり始めている。

肥料商にとって、それはおおむね追い風になると同社は考える。「お米のブランド化や輸出産業化のトレンドは農産

を經由するチャネルを「系統」と呼び、農協組織に拠らないチャネルを「商系」と呼ぶ。メーカーから卸商、小売店に至るまで二つの流通形態には明確な棲み分けが図られてきた。

野矢商店は近畿でも最大規模の商系卸商であり、「商系チャネル内の強い組織力」が強みの源泉だ。



「滞りない商品流通」が卸商としての使命



省力化できる肥料は高齢者に好評だ

物の国際認証「グローバルGAP」取得に適合する肥料の市場を大きく伸ばすだろうし、農政改革で旧来からのさまざまな枠組みが変わることで、営業力を磨けば販路を自由に拡大できる時代も訪れるだろう。その日に備え、肥料を軸に据えた「農業ソリューション企業」を目指していきたい」と野矢会長、鈴木専務は声を揃える。

Profile

有限会社野矢商店

- 本社/東近江市八日市清水3-1-23
- 設立/1947年
- 資本金/2,000万円
- 従業員数/11名
- 事業内容/肥料・農薬・農業資材の販売、種子・米穀・健康食品の販売



代表取締役会長
 野矢 善章氏

Voice

農業は地域の活力の源。私どもは肥料を通じて滋賀県の米づくり・野菜づくりにお力添えをしてきました。時代がどう変わろうと、「明日の農業」を支える気概を忘れず、今後も地域社会に貢献するための努力を重ねてまいります。